

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

活動地域・団体名：長沼町

今後地域の将来像を実現するために必要と考えられる事業を3つ書いてください。

1 事業名称：舞鶴遊水地及び周辺施設を活用した環境学習・観光の拠点づくり事業			
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック	
<p>○平成27年度供用開始された舞鶴遊水地は良好な自然環境が再生し、タンチョウが継続的に飛来しており、野鳥観察のスポットとしても認知度が高まりつつある。</p> <p>○長沼町では、これまで舞鶴遊水地を活用した町内児童・生徒への環境学習などに取り組んできたところである。</p> <p>○本事業では、舞鶴遊水地の自然環境やタンチョウの保全を確実なものとしつつ、そのポテンシャルを活かして環境学習や観光などへの活用を進める。</p> <p>○舞鶴遊水地周囲堤上に仮設した観察小屋「鳥の駅マオイトー」を設置継続し、来訪者の自然観察・交流の場とする。</p> <p>○近隣にある長沼舞鶴小学校（令和2年3月閉校）を取組・活動の拠点として整備し、環境学習や観光のための資料展示、地元産物の販売などの施設とする。</p>	<p>①なぜこの事業をやるのか（Why）</p> <p>タンチョウの営巣可能性の高い舞鶴遊水地と周辺施設を関連付け、長沼町の地域振興に資するため</p>	<p>舞鶴遊水地から2kmの距離にある舞鶴小学校（令和2年3月閉校）を積極的に活用したいが、財政上、町が校舎を管理することは困難である。また、現在舞鶴遊水地に仮設している観察小屋「鳥の駅マオイトー」も、継続設置のための予算が確保されていない。これらの維持管理・利活用のために安定的な財源の確保（企業等との連携）が課題である。</p>	
	<p>②どの地域資源を活用するか</p> <p>タンチョウ 舞鶴遊水地 長沼舞鶴小学校（令和2年3月閉校）校舎</p>		
	<p>③商品・サービスの具体的な内容は何か（What）</p> <p>タンチョウをはじめとした自然・野鳥観察 舞鶴遊水地を活用した環境教育 舞鶴遊水地や廃校を活用した拠点における来訪者同士の交流 廃校を活用した拠点における郷土資料や博物資料の展示 廃校を活用した拠点における地元産物の販売</p>		
	<p>④誰がこの事業の主たる担い手か（Who）</p> <p>舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会や現在設立を検討しているボランティアグループなどが将来的にNPOとして自立して、指定管理者として施設の資料館・交流スペース部分を運営 取組を支援する企業・大学・研究機関等が自社事業スペースを運営</p>		<p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</p>
	<p>⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか</p> <p>舞鶴遊水地で野鳥観察をするのみで移動・帰宅していた来訪者が、近隣の施設へ立ち寄り博物館の入場料の支払いやタンチョウ関連商品や地元産品などを購入することで施設が維持され、地域経済の循環が起こる。 拠点が整備されることで地元住民もボランティア活動がしやすくなり、環境整備活動やタンチョウ見守り活動、環境学習、グリーンツーリズムでの活用などが活発化する。 また、拠点来訪者に向けて、観察・撮影マナーが周知される。</p>		<p>舞鶴小学校校舎や鳥の駅マオイトーの維持管理・利活用を支援してくれる企業・大学・研究機関、金融機関</p>

2 事業名称：タンチョウをシンボルにした環境に配慮した農業の取組と農産物のブランド化事業			
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック	
<p>○農業は長沼町の基幹産業であり、町面積の8割が農地であり、米、小麦、大豆、野菜など多品目が栽培される。</p> <p>○タンチョウは日中、舞鶴遊水地だけでなく町内の農地へも飛来が確認されていることから、農地もタンチョウの重要な採食環境として機能していると考えられる。</p> <p>○長沼町の農業の現状と今後の見通しを踏まえ、「タンチョウも住めるまち」として長沼町でタンチョウをはじめとした野生生物との共生にも配慮した農作業項目を策定する。</p> <p>○また、環境には配慮した農法やタンチョウをシンボルとして長沼町の農産物のブランド化を行うとともに、販路の開拓を行う。</p>	<p>①なぜこの事業をやるのか（Why）</p> <p>タンチョウの生息環境（特に採食）を構築するとともに、産業との両立を図る</p>	<p>農業者が環境への配慮に取り組むためには、それによって自身の農作物が（高い価格で）売れるという見込みが必要である。そのため、本取組を軌道に乗せるためには、（1）農法の検討・実践（2）販路の確保の2つの側面からアプローチをする必要がある。今年度、先進地視察等を通じて農業者の意欲を喚起することはできたが、地域農業の現状と今後の方向性を踏まえ、「どのような農法に取り組むか」「どのように販売するか」が今後の課題である。</p>	
	<p>②どの地域資源を活用するか</p> <p>タンチョウ 農業・農産物</p>		
	<p>③商品・サービスの具体的な内容は何か（What）</p> <p>環境に配慮したブランド価値の高い農産物</p>		
	<p>④誰がこの事業の主たる担い手か（Who）</p> <p>農業者が環境に配慮した農業を実践、経験を蓄積 ながぬま農業協同組合が環境に配慮した農産物にマークを貼付し、高付加価値で販売</p>		<p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</p>
	<p>⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか</p> <p>長沼町の農業・農産物にブランド力がつき、販売単価が向上することで、地域経済の循環が起こる。 農業者のやる気向上、後継者の確保につながる。 タンチョウブランド農産物の販売が促進されることでタンチョウ農法に取り組む農業者が増加し、タンチョウの採食・生息に適した農地面積が拡大する。</p>		<p>長沼町で環境に配慮した農法の研究をしてくれる大学・研究機関 長沼町のタンチョウブランド農産物を取り扱ってくれる企業</p>

3 事業名称：町内での取組定着や町外へのイベント出展等を通じた取組のPR・普及啓発事業			
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック	
<p>○長沼町は平成28年度より「タンチョウも住めるまちづくり検討協議会」を設立し、タンチョウの生息環境整備とタンチョウをシンボルとした地域づくりに取り組んでいる。</p> <p>○「タンチョウも住めるまち」としての長沼町のイメージを町内外に発信し、定着を推進することで、長沼町のブランドイメージを向上し、地域ぐるみでタンチョウを見守る雰囲気醸成や、観光・移住の呼び込みにつなげる。</p> <p>○町内では、タンチョウの飛来・生息状況について保護上支障ない範囲で発信するとともに、ロゴマーク、タンチョウ関連商品、イベント開催などでタンチョウを身近に感じてもらうことを推進する。</p> <p>○町外では、イベントへの出展やインターネットを通じた情報発信・動画配信などを通じてタンチョウも住めるまちづくりの取組をPRする。</p>	<p>①なぜこの事業をやるのか（Why）</p> <p>取組を推進するためには、まず地元でタンチョウへの愛着を持ってもらうことが必要である。同時に、タンチョウを観察するときのマナーも定着させ、タンチョウへの悪影響を避ける必要がある。</p>	<p>商品開発には時間を要し、全てが発売されるわけではない。個人商店の多い長沼町の場合、事業主の一存で取組への参加が決められるものの、商品開発へ時間・資金をかけにくい。また、商品を継続的、安定的に販売するための工夫（特に販促・広報戦略）が求められる。</p>	
	<p>②どの地域資源を活用するか</p> <p>タンチョウ、舞鶴遊水地、地元の商店・料飲店</p>		
	<p>③商品・サービスの具体的な内容は何か（What）</p> <p>タンチョウをシンボルにした商品やタンチョウも住めるまちづくりに関連した観光メニュー</p>		
	<p>④誰がこの事業の主たる担い手か（Who）</p> <p>長沼町役場、タンチョウも住めるまちづくり検討協議会地域づくり専門部会がイベント出展やPR・普及啓発の町内呼びかけ 地元の商店・料飲店等、長沼町観光協会がタンチョウ関連商品を開発・販売、地元の商店同士協力してタンチョウ関連商品をPR</p>		<p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</p>
	<p>⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか</p> <p>タンチョウや野鳥観察などを目的に来訪した観光客等がタンチョウ関連商品を購入することで、地元事業者の利益につながり、地域経済の循環が起こる。 また、地元への愛着を持つ町民を増加させるとともに、良好な環境を求める来訪者や移住者を増加させることで、関係人口や定住人口の維持を推進する。 町内外にタンチョウも住めるまちづくりの取組の支援者が増加する。</p>		<p>長沼町商店会、現在タンチョウ関連の商品を販売している商店 観光メニューの検討に協力してくれる旅行会社 情報発信力・影響力のある人物 広報戦略のノウハウを持つ企業・個人</p>